

伝説のサル／

故ベンツ

B群の第1位（9代ボスザル）でありながら、C群のメスザルに恋をしてその地位を捨てたことが話題に。その後、C群に移籍してから第1位（9代ボスザル）にまで上りつめました。異なる二つの群れで第1位になったのはベンツだけです。



生まれたときから
ずっと人気

シャーロット
(7歳)

2015年の第1号赤ちゃんザル。誕生当時は、英国の王女にちなんだ名前が国内外で話題になりました。毎年恒例のTNZ選抜総選挙では、これまで5回も第1位を獲得しています。

赤ちゃん時代のシャーロット
無敵の可愛さ♡



心あたたまる物語／

故テンテン

タクマ（現在、サル寄せ場では
姿が確認されていません）

母親とはぐれ、瀕死の状態だった迷子の「タクマ」と、しっかりと育てた継母の「テンテン」。テンテンは自分の子どもを亡くしたばかりで、まるで自分の子どものように愛情深くタクマを育てました。



一緒に写真が撮れるサル／

マルオ（推定18歳）

B群のオスザル。非常に穏やかな性格で、隣に並んでも怒らないことから、「ツーショットが撮れるサル」として話題になっています。また、周囲のサルに気遣いができ、八方美人な一面も。



A群初代ボスザル／

故ジュピター

高崎山自然動物園開園時には既に第1位（ボスザル）でした。彼がいなければ現在の高崎山はないと言われるほど。凶暴な性格の一方で、優しい一面もありました。



片腕のボス／

故ドラゴン

若い頃に電車にはねられ右手を無くしましたが、ハンディをものともせず、B群の第1位（11代ボスザル）になりました。面倒見が良く、常に群れの先頭で仲間のために戦っていました。



奇跡の母ザル／

マツバ（21歳）

2021年に出産すると、自分の子ザルだけでなく迷子の子ザルも一緒に育て始めました。ニホンザルは基本的には自分の子どもしか育てませんが、お腹に1頭、背中に1頭を抱え、分け隔てなく育てる愛情の深さが話題に。



高崎山初
群れの第1位になったメスザル／

ヤケイ（10歳）

現在、B群の第1位。おとし頃から頭角を現し、2021年にB群の第1位に。メスザルが群れの第1位になるのは、高崎山で初めてです。今後もその活躍が期待されます。



時代を彩ったスターたち

高崎山には個性的なサルがいっぱい！伝説のサルや話題になったサルをご紹介します。



高崎山自然動物園は、3月15日に開園70周年を迎えます。
常連さんも、“最近行ってないなあ”という人も、
ぜひこの機会におサルの高崎山をお楽しみください！

☎ 高崎山自然動物園 ☎532-5010



意外と知らない？
高崎山自然動物園
開園のきっかけ

1952年、当時の大分市長・上田保氏が、高崎山周辺の農作物に被害を及ぼしていたサルを、一か所に集めて観光資源にできないかと、餌付け用にリンゴを用意し、ホラ貝を吹いてサル寄せを試みました。
しかし、なかなかうまくいかず…。そこで餌をリンゴからサツマイモに変えてみたところ、それまで人間を警戒していたサルたちが少しずつ餌を食べるようになった。こうして、いまから70年前の1953年3月、高崎山自然動物園は開園したのです。
それからは、みなさんご存じのとおり数々のスターザルが誕生。大分を代表する観光名所となりました。



上田 保氏



むかしの
高崎山
自然動物園

昭和44年
入園者2,000万人記念



昭和47年 開園20周年



昭和37年
ジュピター像完成



昭和35年 修学旅行先としても人気！



昭和36年 サルが近い！



昭和35年 当時の入園料は大人30円



昭和37年 駐車場と別大国道にバスの列が



昔はお客さんも餌やりができました